

自民・公明の悪政が暮らし直撃！

市民にズッシリ 6億8千万円の増税

高齢者6千人に 2億円の負担増

「市民税が急に3倍になった」「何かの間違いででは？」—— 昨年の6月、値上げされた市民税の通知をもって、多くの市民が市役所窓口で殺到、電話もなりつばなしの状態となりました。

とくに年金暮らしのお年寄りには、年金控除の縮小と老年者控除の廃止のダブルパンチとなり、自民党・公明党が進めた庶民増税への怒りが、日本中に広がっています。

鈴鹿市でもその影響は、高齢者の負担増が約2億円、定率減税の縮小で4億8千万円と大きなものです。（別表）

また、これとは別に介護保険料も30%値上げされ、暮らしを圧迫しています。



■2006年度増税の内容

老年者控除の廃止	1億3630万円
年金控除の縮小	5260万円
老年者非課税措置の廃止	430万円
定率減税の縮小(2分の1)	4億8210万円

国会でも地方議会でも反対したのは日本共産党だけ

日本共産党市議団は、庶民の暮らし、高齢者の生活を圧迫する増税にはキッパリと反対しましたが、他の議員はすべて賛成の態度をとりました。

140億円の貯金、暮らしと福祉にまわせ

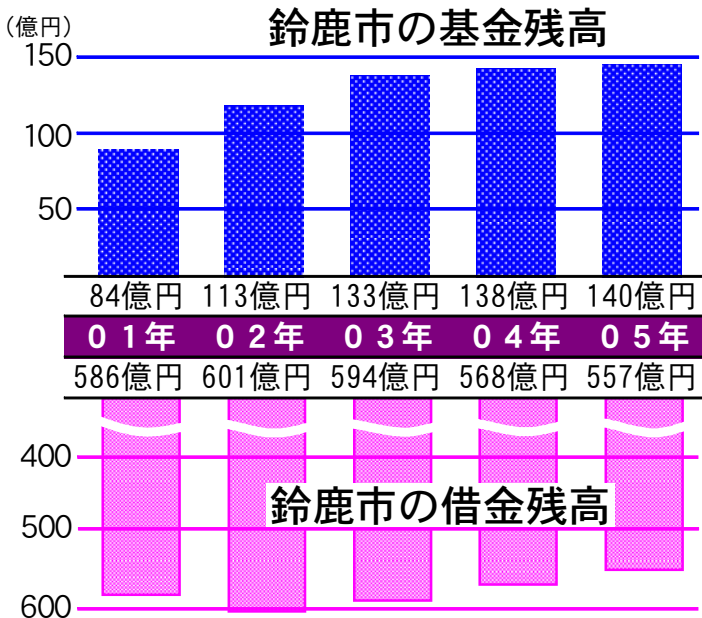


そんな市民の状態に対して、鈴鹿市は国や県の低いサービス水準、介護保険からはずされたサービスを補うような市としての施策を講じようとしません。「財政がきびしいから」という理由は、本当でしょうか？

鈴鹿市の財政は、ホンダ関連の好調もあって税収が増え、借金をへらし基金（貯金）を大きく増やしています。昨年完成した新庁舎も、長年の積立金で建てたので新たな借金はしていません。

この貯金の一部を使えば、暮らしに困っている市民、障害者、高齢者や子供のための独自の施策は、もっと出来るはずですが、ところが、今年度は図書館の図書購入費を1千万円もカットし移動図書館を廃止、昨年度の繰越金約2億円のほとんどを道路整備に回すなど、やっていることは市民の願いに反することばかりです。

鈴鹿市は「カネが無い」のではなく、「やる気が無い」のです。日本共産党市議団は議会のたびに市長に、市民のための具体的な施策を行なうよう求めています。



一日も早く
実現させましょ

- ◎乳幼児医療無料化を小学校入学までに
- ◎国保税・介護保険料の引き下げ・減免を
- ◎障害者・要介護者の自己負担に助成を
- ◎先生ふやして30人以下学級を
- ◎中学校でも完全給食を



市民の皆さんと共に歩みます。

日本共産党 鈴鹿市議団



鈴鹿市庁舎の前で

日本共産党の石田秀三・森川ヤスエ両議員は、市議会で市民要求を積極的に取り上げ、毎議会質問に立ってその実現に力を尽くしてきました。

また各種の市民相談にも気軽に応じ、多重債務や生活保護、住宅、税金などの困りごとをたくさん解決してきました。

議会の中では少数でも、鈴鹿市民にとって頼もしい味方、なくてはならない市民の代表です

新庁舎建設 入札改革で 13億円の節約



前期末の02年に、新庁舎建設工事の「入札談合」を追及、「合併問題」もあって入札は1年延期されました。03年秋の入札に当たって市議団は、談合防止策の徹底を求め、数社が組む「JV方式」をやめる、郵便入札方式にする、予定価格を設計価格から1割引き下げするなど、議員団の提案も取り入れた入札が行なわれ、結果として13億円も安い約85億円での契約となりました。

その後の各工事の入札も、大きなものは4%引き下げが制度化され、予算の節約につながっています。

「同和」行政は 終結せよと追及

特別法が失効して5年、「同和」と名のつく仕事はもう何もないはずですが、

ところが鈴鹿市も三重県も「同和」人権行政をやめようとせず、市民の「差別意識」があるから続けると言っています。

党市議団は、逆差別になる「同和特別扱い」をやめることを何度も質問、不明朗な予算を200万円以上削減させました。

国民健康保険税、2年 連続、引き下げさせる

前市長の辞め際の03年に、いっきに3割もの国保税値上げが強行され、鈴鹿市は県下トップの高い税額になりました。そして払えない市民が続出、滞納世帯が増えて収納率は下がって県下ビリとなりました。

党市議団は、市民を苦しめる高い国保税の値下げを求めて毎議会質問し、値上げし過ぎてきた11億円もの黒字を、引き下げに回せと主張しました。

そしてついに05年度、06年度それぞれ5%、合計10%、一人当たり1万円ほどの引き下げが行なわれました。

しかし、下がったとは言っても依然として県下2位の高さの国保税、市民の負担を軽くし暮らしを守るためには、さらに引き下げが必要です

■一人当たりの国保税額の比較

04年度	05年度	06年度
94,965円	90,528円	85,866円

長良川導水事業 ストップさせる

長良川河口堰の水を鈴鹿市の上水道に入れる事業に、最初から反対。鈴鹿市の水源で充分足りることを明らかにし、計画をストップさせました。

昨年、県企業庁も当初計画の実施をやつとあきらめました。市議団は「ムダな事業より、老朽化した水道施設の更新に全力を」と提案しています。

なんでも賛成 自民・公明・民主系 改悪にはきっぱり反対 日本共産党

日本共産党市議団は、市長が提案する議案や予算にたいして、「良いことには賛成、改悪には反対」の態度を明らかにしています。

他の会派の議員のほとんどは、良いことも悪いことも「何でも賛成」です。議会の役割は、市民の立場から行政をチェックすることなのに、オール賛成では市民の代表としての資格が問われます。